

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
栃木県 茂木町	栃木県90000 茂木町93432	1	平成23年度～ 平成25年度	平成23年度
活性化計画の区域				
栃木県茂木町大字林地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
地域農産物の販売額の増加	21.07%	15.40%	73.09	

(コメント)

平成24年4月の加工施設の開設が、東日本大震災の直後となったために、その影響が大きく、放射線量の高い原木シイタケの出荷停止などの風評被害もあって、地域農産物を使用した加工品の販路拡大と販売が進まず、地域農産物の買い入れが目標を達成することができなかった。

しかし、集落ぐるみで耕作放棄地の復旧を行ったり、高齢で作付けが困難になった農地の集積を図ったり、遊休農地を活用したりして、合同会社が自ら、そば、もち米、エゴマ、梅を栽培して加工品の食材に使用する取り組みが定着しつつある。また、食品メーカーから依頼を受けてトウガラシ、バジルの試験栽培を行い、1次加工の取り組みも模索している。

現在、エゴマ、そば、キュウリなどの地場農産物を使用した新商品開発を手がけていることから、今後、地元農家から買い入れる地域農産物の販売額は確実に増えると思われる。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農林水産物処理 加工施設	建物1棟150㎡(木造平屋)加工用厨房機器 及び備品一式 実施設計			栃木県茂木町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
林農産加工合同 会社	平成23年度	平成23年度	平成24年4月1日	
事業の効果				
総菜、菓子製造、漬け物加工の3つの加工室を整備したことで、今までは売ることができなかった少量多品目の地域農産物を使用することが可能になり、地域農業収入の増加につながっている。また、加工施設を活用して新そば祭りやオープン記念イベントなどを開催し、多くの地域住民が集まり、地域コミュニティの場となるとともに、林集落にとって重要な活性化拠点となっている。加えて、地域住民6名の雇用を確保できたことと、耕作放棄地の解消と遊休農地の活用などにつながっている。				

3 総合評価

(コメント)

施設のオープンが東日本大震災の直後であったことと、放射能汚染の風評被害の影響があつて、当初目標の売り上げを下回ってしまった。加えて、シイタケなどの地域農産物が出荷停止になってしまったことから加工品の食材に使えなくなり、「地域農産物の販売額の増加」の目標値を達成することができなかつた。しかしながら、耕作放棄や遊休農地を活用した取り組みによって、そば、もち米、エゴマなどの栽培が始まり、それらの農産物を使ったかりんとう、エゴマソース、クッキーなどの新たな商品開発を進めていることから近い将来に目標を十分に達成する見込みである。

4 第三者の意見

(コメント)

加工施設の建築が、単に商品開発、販売だけでなく、耕作放棄地対策やコミュニティの再興など、当該地区にとって多面的な効果をもたらしている。まさに加工施設を起爆剤とした地域活性化の優良事例であり、当該地区の身の丈にあった施設の計画・運営など、全ての面において高く評価される。